

一般社団法人日本社会福祉学会第71回春季大会報告

全国大会運営委員春季大会担当
山田 壮志郎(日本福祉大学)

大会テーマ : 揺らぐ家族と社会福祉—子どもが育つ環境をどうつくるか
開催日時 : 2023年5月28日(日)13:00~17:30
会場 : 東洋大学白山キャンパス1号館1305教室

2023年5月28日、第71回春季大会が4年ぶりの対面形式で開催されました。

冒頭に空閑浩人会長より開会あいさつがあり、続いて日本社会福祉学会2022年度学術賞受賞者講演として、岩田正美氏(日本女子大学名誉教授・受賞作『生活保護解体論—セーフティネットを編みなおす』)および永田祐氏(同志社大学・受賞作『包括的な支援体制のガバナンス—実践と政策をつなぐ市町村福祉行政の展開』)よりご講演いただきました。岩田会員からは、生活保護の解体という刺激的な提案の背景にある生活保護の制度的矛盾について分かりやすく説明していただくとともに、解体した後を見据えて求められる論点についてもご提起いただきました。また、永田会員からは、受賞作で提起されたことを解説していただくとともに、研究の着想に至った経緯や研究方法上の特色、現場に研究が貢献することの意味など多岐にわたるお話をいただきました。

その後、「揺らぐ家族と社会福祉—子どもが育つ環境をどうつくるか」をテーマとするシンポジウムを行いました。シンポジストとして長沼葉月氏(東京都立大学)、野沢慎司氏(明治学院大学)、横山登志子氏(札幌学院大学)の3名にご登壇いただき、コメンテーターを伊藤嘉余子氏(大阪公立大学)、コーディネーターを山田が務めました。

長沼氏からは、精神疾患のある親と暮らす子どもたちの生活課題やニーズと、それに十分対応できていない社会福祉の制度的な課題についてご報告いただきました。野沢氏からは、ステップファミリーの子どもが抱えている生きづらさの背景に、夫婦が離婚すると子どもの親が一人になるという日本特有の離婚制度のパラダイムがあることが指摘されました。横山氏からは、シングルマザーの母親の生きづらさが母親規範、家族規範によって生み出されること、その根幹にある母性主義を相対化しうるソーシャルワークが必要であることが提起されました。

3名の報告を受け、コメンテーターの伊藤氏からは、社会は女性や母親に何を強いてきたのか、ヤングケアラーやステップファミリーのように問題をキーワード化することの意味は何か、家族に対する子どもからの否定的な意見表明にどう応えるべきか、子どもの喪失感をどうケアしていくか、報告のあった様々な問題に対して社会福祉には何が求められるのかといった論点が示されました。これらの論点とフロアから寄せられた質問をもとに、限られた時間ではありましたがシンポジストによるディスカッションが交わされました。議論の時間を十分確保できなかったことが心残りでしたが、子どもや親が抱える生きづらさの背景に私たちの社会がもつ家族規範が共通して横たわっていることを描き出

すことができた有意義なシンポジウムでした。

最後に、金子光一副会長より閉会のあいさつをいただき、無事に大会を終了することができました。ご参加いただいた皆様、大会開催にあたりご協力をいただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。